

## 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○生きて働く知識・技能を確実に習得させる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識・技能を生かすことのできる、問題解決的な授業を展開する。</li> </ul> </li> <li>○思考力・判断力・表現力等の育成を図る。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を設定し、その課題を解決する学習を通して、思考力・判断力・表現力等を育成する。</li> </ul> </li> <li>○学びに向かう力・人間性を育む。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までの実践で培った教科担任制のよさを生かし、学習内容への理解を深めたり、興味を広げたりすることを通して、学びに向かう力を育む。</li> </ul> </li> <li>○どの子にも分かる授業、楽しい授業を展開する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた教育活動を基本とし、学ぶ意義、分かる楽しさを児童一人一人に感じさせる。</li> </ul> </li> </ul>

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、アナログやデジタルの各種ツールを効果的に活用し、繰り返し取り組ませる。</li> <li>・思考力・判断力・表現力を身に付けるために、単元を見通した指導計画を工夫し、どの教科でも問題解決型学習を行う。</li> <li>・学びに向かう力・人間性を育成するために、見通しをもたせる導入や、進め方を意識した授業展開、知的好奇心を育むような発問の工夫を行う。</li> <li>・どの子にも分かる授業・楽しい授業を展開するために、視覚的に分かりやすいICTを活用する。</li> </ul>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、他者に伝えるように表現できるように話型や見本動画などの活用をする。</li> <li>○図書や読書週間を活用し、読書習慣の定着を図る。</li> <li>○児童同士が交流する時間を設定し、自分と友達との考えを関連付けながら話したり、自分の考えを深めたりできるようにする。</li> <li>○ICT機器や本を活用して調べ、観察する。インタビューする活動を年齢段階に応じて取り入れ、情報を整理して大事なことをまとめられるようにする。</li> <li>○登場人物の行動や筆者の考えをより深く捉えるために着目された叙述を明確にして学習課題を設定する。</li> <li>○言葉集めや意味調べなどの活動を通して児童の語彙が増えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材と既習事項との系統性を確認し、学んできたことを生かしながら、学習が進められるようにする。</li> <li>○毎時間の学習のめあてを明確にし、学習の流れを伝えたりすることで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>○音楽活動を通して聞き取ったこと・感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素と結び付け、音楽の見方・考え方を働かせた授業を展開することで知識・技能を習得させる。</li> <li>○身につけた知識・技能を表現に生かすことで、より確実な定着</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然体験・ボランティア活動・ものづくりなどを通して、問題の解決や探究活動を行う。</li> <li>○地域の方やボランティアの方の協力を得て、社会とのかかわりを考える学習活動を行っていく。</li> <li>○国際理解・国調べや交流活動を設定して興味関心を高める。</li> <li>○銀杏プロジェクト・銀杏拾いや銀杏販売を行い、キャリア教育や国際理解への興味関心を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書を活用し、様々な価値について考える活動の中で、児童が自分の生き方について考える力を養っていく。</li> <li>○学年や児童の実態に即した発問を精選することで、ねらいとする価値を深め、道徳の時間の充実を図っていく。</li> </ul>
	社会科	図工科			特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な事象について自分なりの言葉で表現できるようにするために、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会の関わり方について、考えたことを説明したり、話し合ったりできるようにする。</li> <li>○興味をもって自ら調べること、知識として定着させることができるように、学習課題の発問を中心とした提示を工夫する。</li> <li>○様々な資料を比較、関連付けて考えることができるように、副読本や資料集やICT機器を活用して多面的に考えられるようにしていく。</li> <li>○課題解決に向け、交流する時間を設定し、自分と友達との考えを関連付けながら話したり、自分の考えを深めたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材と既習事項との系統性を確認し、学んできたことを生かしながら、学習が進められるような学習展開にする。</li> <li>○毎時間の学習のめあてを明確にし、学習の流れを伝えたりすることで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>○表現したい気持ちを持ち、大切にしながら題材に取り組むことができるようICT機器を活用し、題材の提示の仕方を工夫する。</li> <li>○他者との関わりの中で自分の内面に気づき、相手の良さを感じ取ることのできる鑑賞活動を行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級、児童会・クラブ活動などで話し合い活動を充実させ、学校生活や行事をより楽しく豊かな内容にするための自治的実践的な態度を育てる。</li> <li>○縦割り班による活動を通年でを行い、異学年との交流を深め、主体的に行動する力や豊かな人間関係の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラスルームイングリッシュを活用し、英語に親しむ。</li> <li>○ALT、友達との交流を楽しむことで英語教育の充実を目指す。</li> <li>○放課後英語教室を実施し、英語に抵抗感なく親しもうとする児童を育てる。</li> </ul>
	算数科	家庭科				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な知識・技能を繰り返し復習する。</li> <li>○既習事項と比較関連付け、技能を習得できるようにする。</li> <li>○単元のねらいに沿い、且つ、その領域の系統性から見た一貫した指導をすることで、数量や図形に対する「見方、考え方」を養い、深い学びへとつなげる。</li> <li>○既習学習をもとに、新しい学習課題に出合わせることで、その時間、その単元の学習の見通しをもたせるようにする。</li> <li>○ICT機器を活用することにより、問題場面や考え方を視覚的に理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人一人が自分の進度に合わせて資料を確認したり、復習をしたりできるようにICT機器を活用する。</li> <li>○毎時間の学習のめあてを明確にし、学習の流れを伝えたりすることで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>○ICT機器を活用したふりかきカードなどを使って、めあてを意識して学習に取り組めるようにする。</li> <li>○学習したことを家庭でも実践することができるよう実践カードを活用する。</li> </ul>				
	理科	体育科				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを根拠に、事象について自分なりの言葉で表現できるようにする。</li> <li>○学習課題を明確にし、理科の「見方・考え方」を働かせ、課題に対する見通しをしっかりとつよにする。それをもとに、学習に主体的に取り組むことができるようにする。</li> <li>○実験を少人数(特に個人での活動を工夫して設定する)で行い、基礎的・基本的な技能を身に付けさせる。</li> <li>○プログラミングの体験を通して、論理的思考力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力向上に向け、運動量の確保を忘れず、児童が様々な運動を「やってみよう」と感じられるようにしていく。</li> <li>○運動の楽しさや、できたときの喜びを味わわせることができるようにルールや教具などの工夫をする。</li> <li>○学習カードやクロムブックを使って、個人やチームの課題や自分の考えを振り返られるようにする。</li> <li>○個人やチームの課題に向けていろいろな作戦例や練習の場を準備する。選択したり応用させたりしていくことで、考えて解決していくようにさせる。</li> <li>○話し合いと振り返りの時間を設ける。</li> </ul>				
	生活科	外国語科(5・6年生)				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験活動を取り入れる。単発の体験ではなく、没頭して何度も挑戦できるような体験活動になるように工夫する。</li> <li>○伝え合いや発表などの表現活動を適切に位置付ける。</li> <li>○体験活動と表現活動の相互作用によって学習活動を質的に高めしていく。</li> <li>○2年間を見通した指導計画を作成することによって、身の回りの対象への見方や考え方を広げ、思考力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題と既習事項との系統性を確認し、学んできたことを生かしながら、学習が進められるようにしていく。</li> <li>○ICT機器(デジタル教科書など)を効果的に活用し、外国語の音声や外国の映像を見て、外国の文化に親しむことができるようにする。</li> <li>○児童同士・児童とALTとの英語での交流の時間を多く設け、英語が話すこと、伝わったことの喜びを味わわせることができるようにする。</li> <li>○英語ワークシートやノートを活用し、英単語や文章を書き写すことを通して、アルファベットや単語に慣れ親しませ、中学校の学習に繋がるようにする。</li> </ul>				

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	振り返りの設定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末やプロジェクターを積極的に活用する。</li> <li>○情報委員会のメンバー(各学年、専科、特別支援学級から各1名以上)を中心に、ICTの活用方法を共有する。</li> <li>○効果的な活用方法や新たな活用方法が分かった際、研究推進部の中で研修を行い、各学年などに活用方法を広げていく。</li> <li>○ICT機器(特にタブレット端末)を活用した学習では、以前(タブレット端末を使わなかった場合)と比べ、ICTを活用したことで効果があったかを検証し、効果的な活用方法を見出ししていく。</li> <li>○発達段階に合わせ、タブレット端末を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度までの研究会・学年会と関連させて</li> <li>○教材研究を行ったり、教材準備、指導方法の確認をしたり、「見通しをもたせる導入」について学校や学年で共通理解を図る。</li> <li>○単元の始めに、どのように学ぶのかなど、学習の流れを示す。</li> <li>○授業の始めに学習の流れやめあてを提示する。</li> <li>○授業後や単元終了後には、児童の成果物や学習の様子から見通しをもたせられたかどうかを検証し、次の学習に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の最後に学習を振り返る時間を設ける。その際振り返りの観点をいくつか示し、振り返る内容を焦点化する。</li> <li>○毎時間、児童が授業の最後に振り返りでどのようなことを発言・記述してほしいか、授業のゴールイメージをもって教材準備を行う。</li> <li>○今年度の校内研究(算数科)と関連させて</li> <li>○言語による振り返りとともに、授業の最後の習熟問題では、問題の正否のみで理解度を見取るのではなく、どこまで理解できているのか途中式やメモなどからスモールステップで見取ることでより細やかな理解度の把握をして次時にフィードバックしていく。</li> </ul>